

# 豊かな感性を育む学級集会

— 第3学年「むかしあそび集会をしよう」の実践を通して —

曾根照三

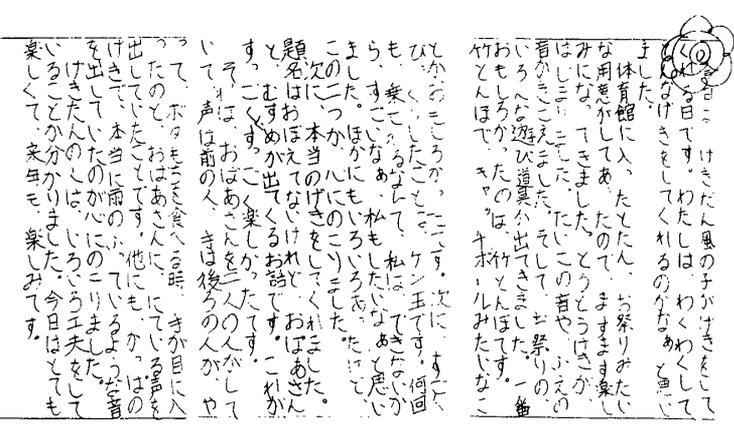
## 1. はじめに

「個性を伸ばし、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。」という特別活動の目標を具現化するためには、児童の内発性を重視したさまざまな活動場面を設定することが大切であろう。本題材「むかしあそび集会をしよう」では、我が国に古くから伝わる伝承遊びを新しい目で見直すことにより、人間の心の奥深くに定着しているよりしっかりしたもの、より美しいものを求める実践的な態度が自然な形で身につくものと思われる。

子どもたちは、これまでに「サッカー大会をしよう」、「リレー大会をしよう」、「紙しばい大会をしよう」、「カレーづくりに挑戦しよう」などの集会活動に積極的に取り組んできた。

10月中旬には、劇団風の子の劇「おまつりどんぶり」を見たが日記の中に何人もの子が、自分でも「いろいろな昔あそびをやってみたい。」と綴っていた。

家に帰ってからは、近所の子どもたちと遊ぶ機会も少なく、テレビゲームや塾通いに明け暮れている子も多い現実をふまえ、本来の遊びの意義を子どもと共に見直し生活の中に生かしていきたいと思うのである。



資料1 「おまつりどんぶり」を見た日の日記から

## 2. 指導の実際

### (1) 学習の経過と展望

今回の「昔あそび集会をしよう」では、次の2つの点から子ども一人一人の豊かな感性を育みたいと願っている。

- ① 昔あそび自体のもつよさと触れ合う中で豊かな感性を育む。
- ② 先生や友達との触れ合いを通して豊かな感性を育む。

その学習過程を「豊かな感性を育む」という視点から分析してみると、次のようにまとめることができる。

学 習 活 動	活 動 内 容	時 数
①「美しいもの、価値あるものに気付く」	○劇団「風の子」の劇を見て、「いいなあ。」「楽しそうだなあ。」「してみたいなあ。」とを感じる。	2
②「感じたことを表現し実践化する」	○「自分でもあんな遊びをしてみたいな。」という思いを友達に話したり、日記に書いたりする。 ○おうちの人から昔から伝わる遊びにはどんなものがあるのか聞き調べる。 ○自分たちのしてみたい伝承遊びを発表しあい、その中で自分が一番してみたい遊びごとにグループを作る。 ○グループで協力して伝承遊びの楽しさを友達に紹介する。 ○おうちの人(おじいちゃん、おばあちゃんも招待する)と共に、いろいろな伝承遊びの楽しさを味わう会を持つ。	4.5
③「活動したことを振り返りより確かな認識をする。」	○伝承遊びをして思ったこと、友達とのふれあいの中で感じたことなどを話し合い、活動のまとめをする。	1

## (2) 展開の概要

### ① 「調べた昔あそびについての発表会をしよう！」

子どもたちは、自分が紹介したい遊びごとにグループをつくった。そして、お家の人からその遊び道具の作り方や遊び方を聞いたり、実際に自分たちでその遊びを夢中になって体験したりした。

昔あそびの発表会をしようと計画を話し合った翌日、私自身が驚いたのは、教室に入ってみると、自分から進んで竹馬やお手玉、けん玉などを持ってきて、楽しそうに遊んでいる子どもたちの姿がみられたことだ。おじいちゃん



作ってくれた竹馬や竹ぼっくりに乗ろうと、一生懸命に練習している子、けん先に玉をのせようと一生懸命になっている子。そんな子どもたちの姿を見て、この集会に取り組む子どもたちの熱気のようなものが私にびんびんと伝わってきたのである。

子どもたちがつくったグループは、次のようなものであった。

お手玉あそび、けん玉あそび、竹とんぼあそび、竹馬あそび、紙風船、ぺたくた、フラフープ、バンブーダンス、てっぽうあそび、しゃぼん玉あそび

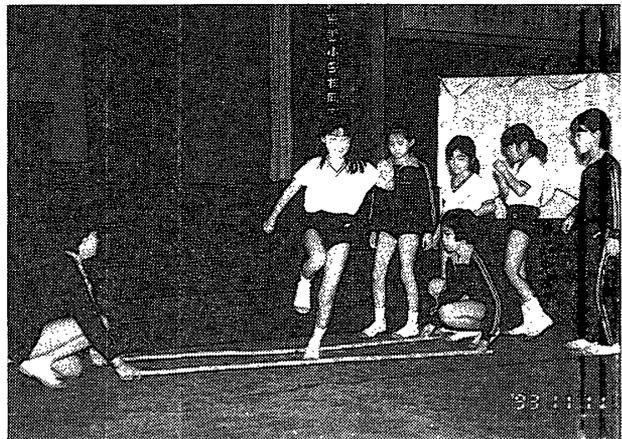
休憩時間や放課後の時間を利用して、子どもたちは、夢中で自分たちのあそびや、他のグループの遊びに取り組んだ。てっぽうあそびグループの子どもたちは、竹をのこぎりで切り、ナイフで削ってだいこん鉄砲作りに取り組んだ。バンブーダンスグループの子どもたちは、「いるかはざんぶらこ」のオルガンを練習し、何度も何度も楽しそうに繰り返しダンスを踊った。シャボン玉グループの子どもたちは、図書室に行き特別なしゃぼん玉液の作り方を発見した。このようにして、発表会の準

備は、子どもたちの手で進められていった。

苦労していたのは、「けん玉グループ」と「ぺたくたグループ」であった。けん玉グループは、本を調べたりお家の人から聞いたりして、いろいろな技があることを知ったのだが、練習してもなかなかすぐにはうまくいかなかったのである。それでも、練習を繰り返し、基本的な技は少しずつだけできるようになっていった。ぺたくたは、「おまつりどんぶり」の劇の中で紹介された昔あそびの道具である。べにや板を使って作るからくりおもちゃである。グループの子どもたちは、図書室の「手作りおもちゃ事典」を使って作り方を見つけたけれど、実際にどのような仕掛けにするのかが、絵を見ただけでは分かりにくいのである。何度も失敗したり、やり直したりしながらやっと完成させたのである。

○「昔あそび発表会」の流れ

感性を育む学習過程	児童の活動
○美しいもの、価値あるものに気付く (めあて意識を持つ)	①はじめの言葉(司会) ②3年1組の歌(全員) ③めあての確認(全員)  ・紹介の仕方を工夫して楽しい会にしよう。 ・友達の発表をよく聞いて、友達のよさを見つけよう。
○感じたことを表現し実践化する。	④各グループの発表  ・お手玉グループ ・けん玉グループ ・竹とんぼグループ ・紙遊びグループ ・ぺたくたグループ ・フラフグループ ・バンブーグループ ・こま遊びグループ ・鉄砲遊びグループ ・しゃぼん玉遊び
○活動したことを振り返り、友達の良さを認め合う。	⑤活動の振り返り ・友達のよかったところ ・これからしてみたいこと ⑥先生の話 ⑦終わりの言葉



② お家の方と一緒に昔あそびをしよう

昔あそび発表会をした日から、遊びの輪はさらに広がりを見せた。休憩時間になると自分の発表した遊びだけでなく、いろいろな昔遊びを体験しようとする子どもたちの姿がみられた。自分の担当だった遊びを友達に自慢気に教えてあげる子、

